

はじめに

北村紗衣

むかしむかしあるところに、家族からいじめられてみすばらしい姿で暮らしているかわいらしい女の子が変身して幸せになるまでを語るお話がありました。女の子はふしぎな魔法の助けですてきなお姫さまのような姿に変身し、王子さまと出会いますが、王子さまのもとにめずらしい靴を忘れてしまいます。王子さまは靴を手がかりに女の子を探し、結婚して幸せに暮らすという結末になります。

この女の子の昔話はいろいろなところに広がり、少しずつ形を変えて世界中で受け継がれていくようになりました。寒い夜の炉端やベッドで、たくさんのお話を知っているおじいちゃんやおばあちゃんが孫たちにこのお話をしているところを思い浮かべてください。さらにその孫たちが大きくなって、自分の子どもや孫にこのお話を聞かせてあげます。そうやってお話が伝わっていく中で、

ちよつとばかり内容が変わったりすることもありました。

そうしてお話が伝わっていくうちに、印刷技術の時代が到来します。文章を書くのが得意な作家がこの昔話を聞きつけ、自分なりの物語に仕上げて発表します。印刷により、文字が読める人向けにお話を本にして広めることができるようになったので、これまでよりもはるかにたくさんの人たちの手に届くようになりました。もともとこのお話を知らなかった人たちも、炉端やベッドで子どもたちに本を読んであげること、昔はおじいちゃんやおばあちゃんたちが記憶に頼りながらやっていたことができるようになっていくのです。

文章で書かれた版が広がるにつれて、おおまかな内容は同じとはいえ、声で語られていた時にはさまざまな違いがあった物語の中から、とくに有名になり、人々の想像力に強く訴えるようになるお話が出てきます。主人公の女の子はいろいろな名前がつけられていましたが、英語のシンデレラという名前で呼ばれることが増えていきます。良い魔女が出てきて、シンデレラが王子さまに会う舞踏会に行く準備として魔法でかぼちゃを馬車に変えてくれたり、ガラスの靴をくれたりする展開を含んだバージョンが人気になります。

本でこのお話を読んだ人たちが、さらにこの昔話にヒントを得て舞台を作ったり、作曲をしたり、絵を描いたりするようになっていきます。十九世紀末に登場した映像技術のおかげで、このお話はさらに広がることになりました。映画は特殊効果を使った魔法のような変身を描くのが得意なメディアです。かぼちゃが馬車に、みすばらしい服が華やかなドレスに変わるシンデレラのお話はすぐに人気のある映画の題材になりました。

一九五〇年にはディズニー社が作ったシンデレラのアニメ映画が大ヒットします。力のある国であったアメリカから発信されたシンデレラ物語はまたたくまに世界中を席卷し、シンデレラはお姫さまの代名詞のようになっていきました。映画の公開から七十年以上たった今でも、子どもたちはディズニーランドでシンデレラのお城を見たり、シンデレラの仮装をしたりするのが大好きです。

ディズニーのシンデレラがたくさんの人たちの想像力に入り込んで行くと、当然、それだけじゃ面白くない……と思う人たかも出てきます。おとぎ話は人類みんなのもの文化遺産なんだから、私なりのシンデレラがあつていいはずだ、ということですね。腕っ節が強くてあまり大人しいお姫さまらしくないシンデレラや、男の子のシンデレラが出てくるようなお話も作られます。さらに「なんでこんなところに!？」というようなところでシンデレラのお話の要素が見つかることもあります。

この本はそうしたシンデレラの変身の歴史をいろいろな角度から見していきます。シンデレラというと、ディズニーアニメのプリンセスが定番になっていると思います。私は大学で教えていますが（この本を分担して執筆してくださっている先生方も全員研究者です）、やはり教えている学生はシンデレラというと水色のドレスのディズニープリンセスを思い浮かべる場合が多いです。しかしながら私のような大学教員はそれを見て、「自分の研究分野にはまた一味違う面白いシンデレラ物語があるのにな……」と思うことがあります。この本はそうした研究者の、画一的でないシンデレラ像をみなさんに知ってもらい、学術的な見方も取り入れながら楽しんでほしいという意図で作られた本です。炉端で孫にお話をするかわりに本を作りました。

シンデレラ物語はそのはるか以前から、世界各地のさまざまな場所に、さまざまな形の（必ずしもガラスの靴ではない）足跡を残しています。シンデレラ物語の豊かな来歴を探ること、アニメのお姫さまとは一味違う側面がたくさん見えてくるでしょう。古代から現代まで、さまざまな人々がシンデレラ物語を自分なりに解釈し、おとぎ話を個性的に変身させてきました。この本では、おそらく世界で一番有名な変身の物語であるシンデレラが、歴史の中でどのような変身を遂げてきたかを知る手がかりを提供したいと思います。